

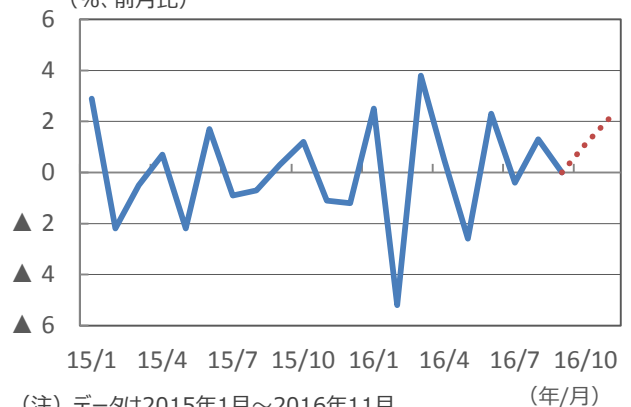
今日のトピック 最近の指標から見る日本経済（2016年11月）

政府の経済対策等に下支えられ、当面持ち直しが続く

ポイント1 生産は緩やかな持ち直しへ
消費は底堅いが、物価はマイナス

- 9月の鉱工業生産指数（速報値）は前月比+0.0%と、市場予想（ブルームバーグ集計）の同+0.9%を下回りました。熊本地震の影響や英国の欧州連合（EU）離脱選択など、生産を抑制する材料が緩和する中で、月次では振れを伴いつつも、生産は緩やかに持ち直していると考えられます。
- 製造工業生産予測調査によると、10月は同+1.1%、11月は同+2.1%と、増加が見込まれています。今後、急激な円高進展などがなければ、生産は緩やかな持ち直しが続くと思込めます。

【鉱工業生産】

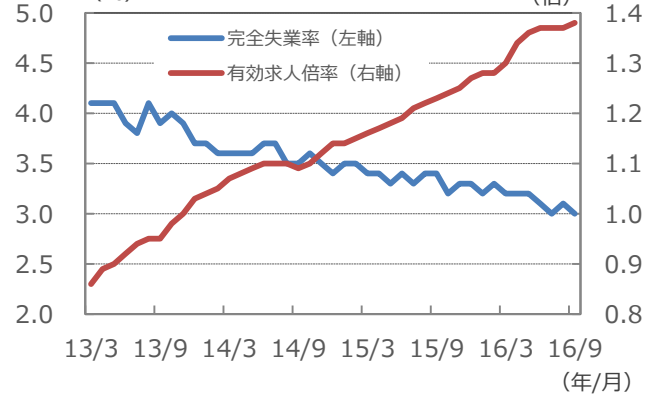


(注) データは2015年1月～2016年11月。
 ▲は2016年10月、11月の製造工業生産予測調査の数値。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 良好な雇用環境が続く
所得は緩やかな増加にとどまる

- 9月の失業率は3.0%、9月の有効求人倍率は1.38倍と、高水準が維持されました。
- 9月の現金給与総額は前年比+0.2%と、小幅な伸びとなりました。一方、物価の下落基調が続いていることから、物価の影響を考慮した実質賃金は同+0.9%と、8カ月連続の増加となっています。現金給与総額の内訳を見ると、残業代にあたる所定外給与が同▲1.3%と減少した一方、基本給にあたる所定内給与は同+0.4%と、引き続き小幅な伸びにとどまりました。

【失業率と有効求人倍率】



(注) データは2013年3月～2016年9月。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 経済対策などに下支えられ、当面持ち直しが続く見込み

- 生産は緩やかな持ち直しが続くと思われることや、補正予算など政府の経済対策に下支えられて、日本経済は当面持ち直しが続くと考えられます。また、今夜に控えた米大統領選挙の結果や、12月に見込まれる米国の利上げなど、相場の不透明要因が払しょくされるに連れて、株式市場は緩やかながら上昇傾向となることが見込まれます。

ここもチェック! 2016年11月4日 米国の金融政策 (2016年11月)
 2016年11月1日 日銀の金融政策 (2016年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。